

平成 23 年度 第 11 回病院局経営戦略会議概要

日 時：平成 24 年 2 月 10 日（金） 午後 3 時 00 分～午後 4 時 28 分

場 所：県庁 10 階 病院事業管理者室

出席者：病院局 病院事業管理者，病院局長，総務課長，
経営企画課長 ほか

病院 各病院長，中央病院副院長，各病院看護局長，
各病院事務局長 ほか

(1) 平成 23 年度決算見込（12 月末）について

【説明】病院局経営企画課 予算企画担当

平成 23 年度の決算見込み（12 月末）について説明する。

(2) 各病院の病床管理（長期入院患者への対応等含む）について

【説明】中央病院

中央病院の病床管理における日々の流れや現状，また，病床利用率の上がった平成 23 年 10 月以降の状況と対策，今後の課題等について説明する。

【質疑等】

管理者：病床管理は病院経営の生命線である。今後の課題として，セクショナリズムの問題が挙げられていたが，各診療科に具体例を出していかないといけない。

中央病院：科別の話であれば，集中治療室から循環器内科に移すときに，10 階病棟でなければ退室許可が出ないといった事例がある。

管理者：循環器内科の医師全員がそういう判断をするわけではないと思うので，個別に説得していかないといけない。

中央病院：院長からも言ってもらっているが，効果が目に見えない。

管理者：言う方は大変だと思うが，各部門ごとにおいて最適性を図る傾向がある。また，これが全体の足を引っばらないように，全体のことを考えること。

管理者：地域性等にもよるが，中央病院において 3 か月以上入院している患者数が 10 人超というのは，時間が来たらどこかに転院してもらおうというわけにもいかないが，少しまだ多い。急性期病院としては，多くて 4～5 人だと思うので倍くらい多い。クリティカルパス等であらかじめ入院期間等を説明しておく必要がある。

【説明】三好病院

三好病院の病床管理について，長期入院患者の現状及び退院促進への課題，今後の対応等について説明する。

【質疑等】

病院局：DPC 入院期間で見ると、「Ⅲ」と「Ⅲ超」が 4 割強いるということになるが、説明を聞く限り、西部圏域の構造的な問題であり、どうしようもないということか。

三好病院：そうではない。DPC 導入に向けて頑張っているところである。「Ⅲ超」の入院患者については出来高で対応するが、「Ⅲ」の 20 数名については影響が大きい。問題意識を持ってやっている。

三好病院：ジェネリックの使用も含め、できる限りの準備を DPC 準備委員会でやっている。

中央病院：地域によってはある程度「Ⅲ」が出てくる。中央病院では、「Ⅲ」を「Ⅱ」にする、「Ⅱ」を「Ⅰ」にするといったことをやっている。

【説明】海部病院

海部病院における病床管理として、地域支援室の業務、退院調整の取組、今後の課題等について説明する。

【質疑等】

三好病院：県南地域に介護療養施設はあるのか。

海部病院：ない。徳島市内の病院に送っている。

三好病院：急性期病棟等退院調整加算は取れているのか。

海部病院：どうにかクリアできている。

三好病院：介護施設に入ることができる人は少ないと思うが。

海部病院：何らかのサービスを利用して、自宅に戻っている。亜急性期から施設に入る人は少ない。

(3) その他

- ・ 県立病院内定者に対する感染症検査について

【説明】病院局総務課 政策調整担当

県立病院内定者に対する感染症検査について、実施予定時期等を説明する。

【質疑等】

中央病院：臨時職員についてはどうするつもりか。

病院局：今は正規職員について考えているが、基本は同じ扱いになると思う。

中央病院：健康診断についても、はっきりしていない。

病院局：検討する。

中央病院：考え方の問題として、公的病院の状況を見て考えるのではなく、県立病院は県全体の医療をリードしていくべき存在としてどうあるべきか、という姿勢で考えていくべきである。